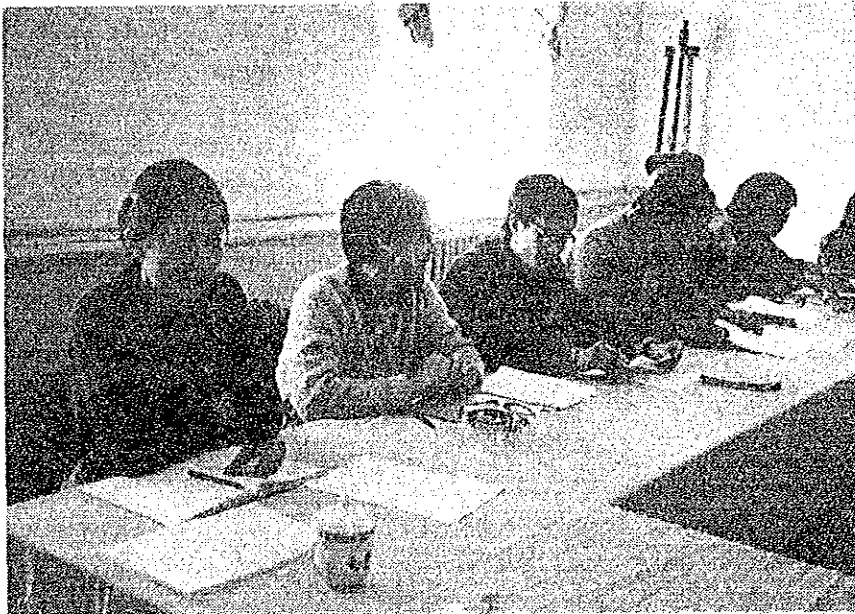
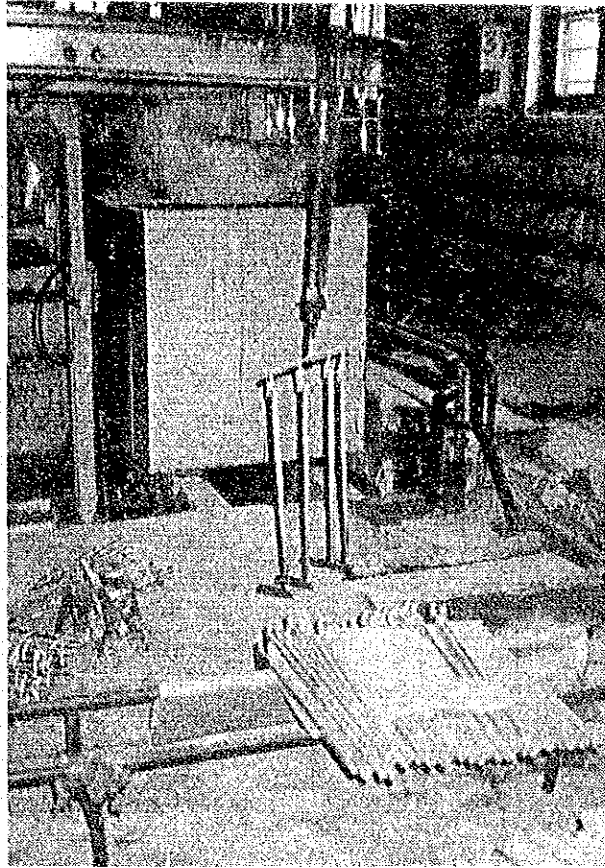




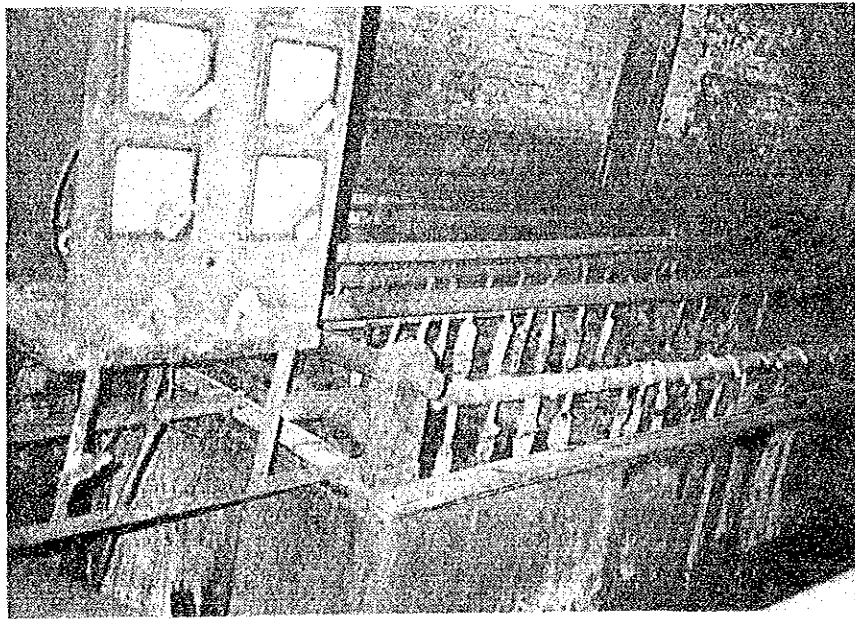
鋼鉄研究総院にてセミナー



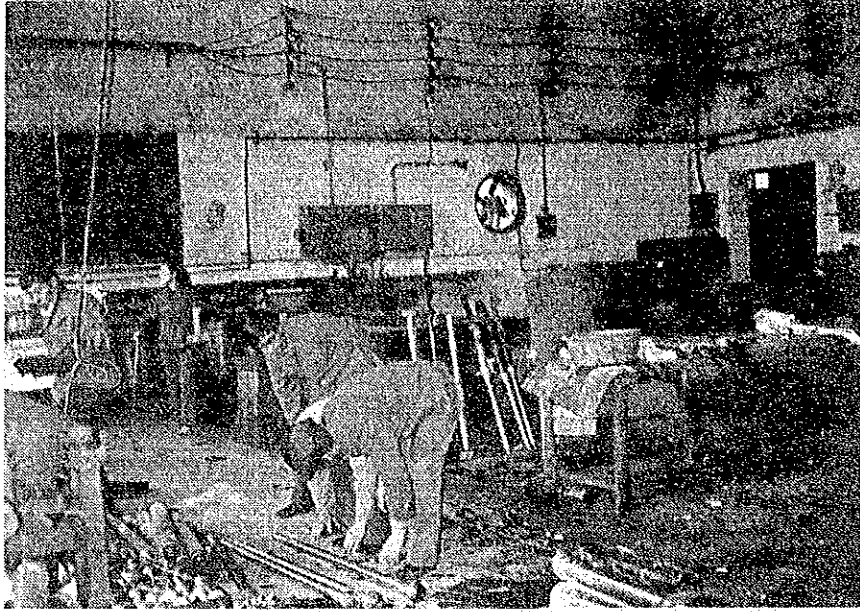
同、セミナー



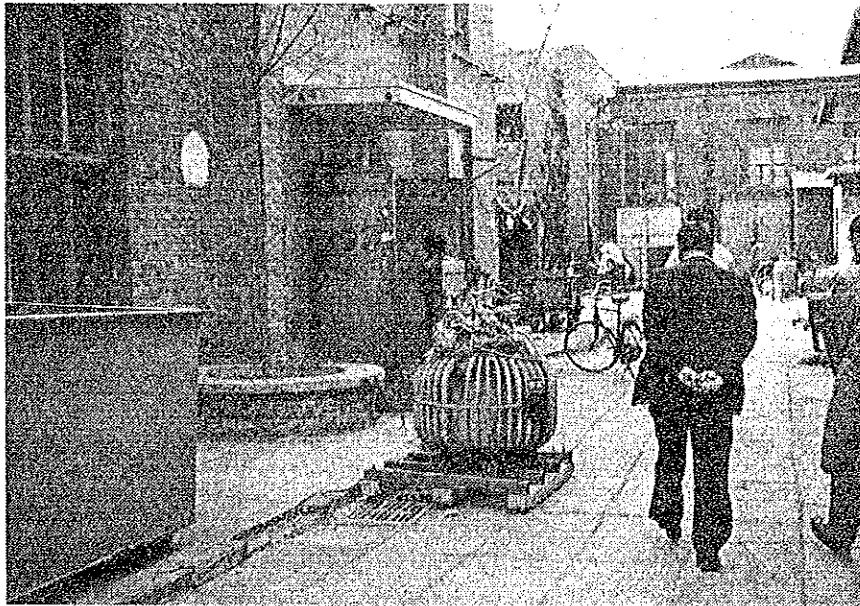
北京電鍍工場（エレベーター式Cu-Ni-Crめっき装置）



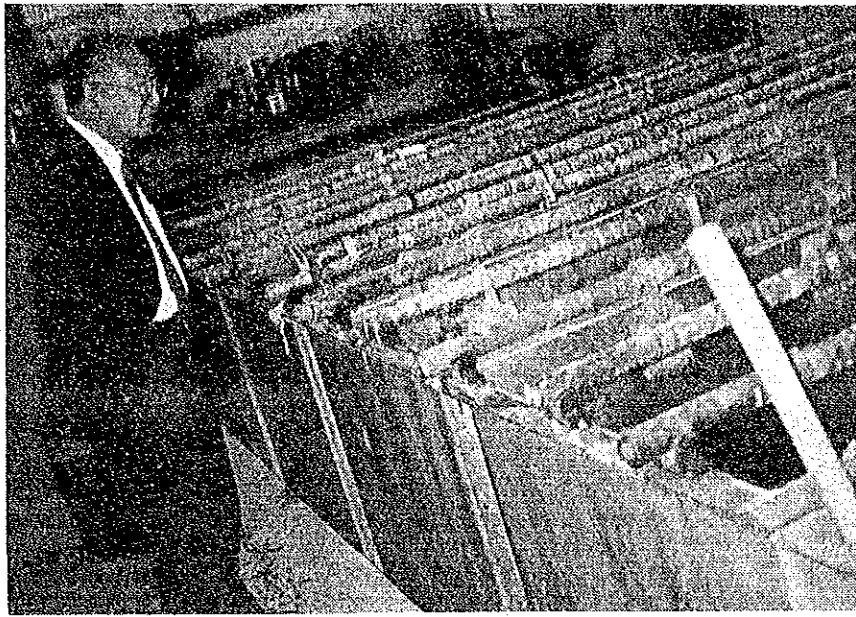
同所のめっき槽



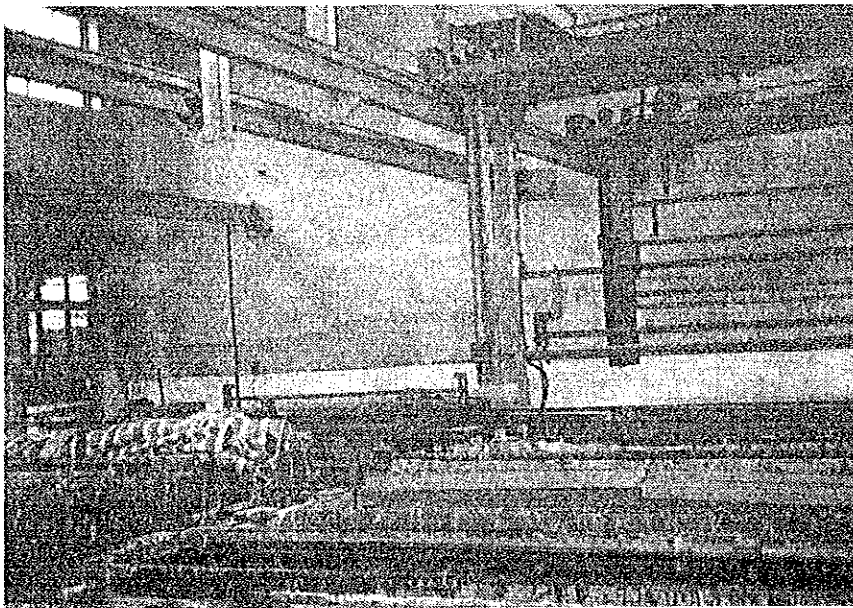
同、硬質クロムめっき工場



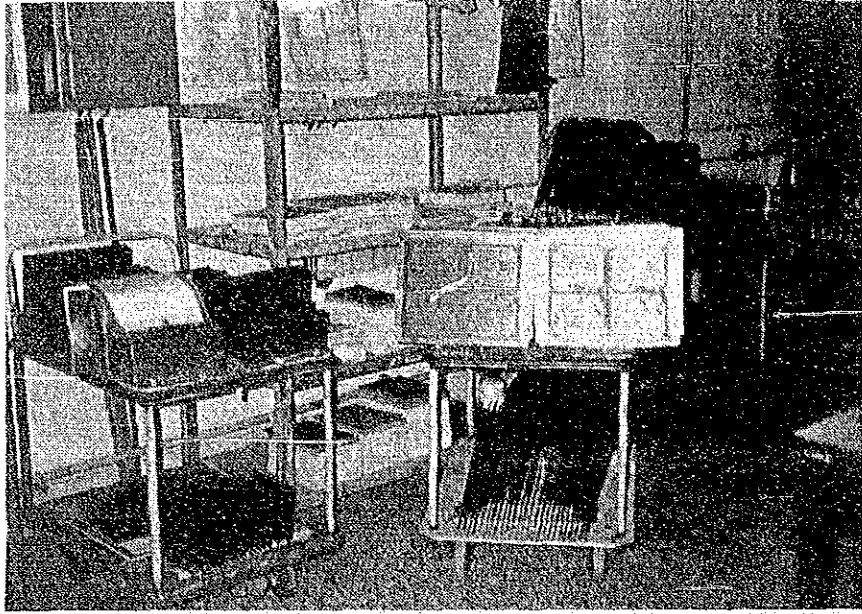
同、工場構内



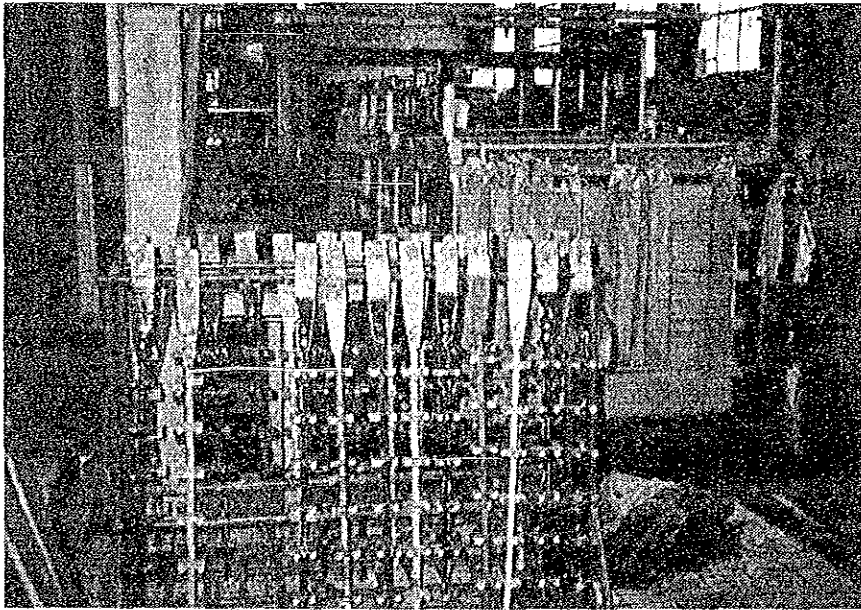
同、ニッケルめっき槽



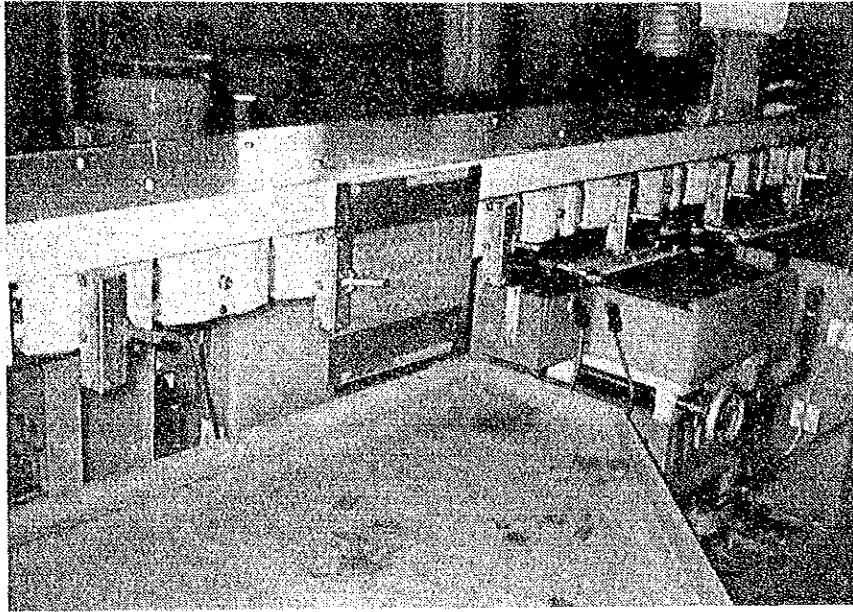
同、キャリア式Ni-Crめっき装置



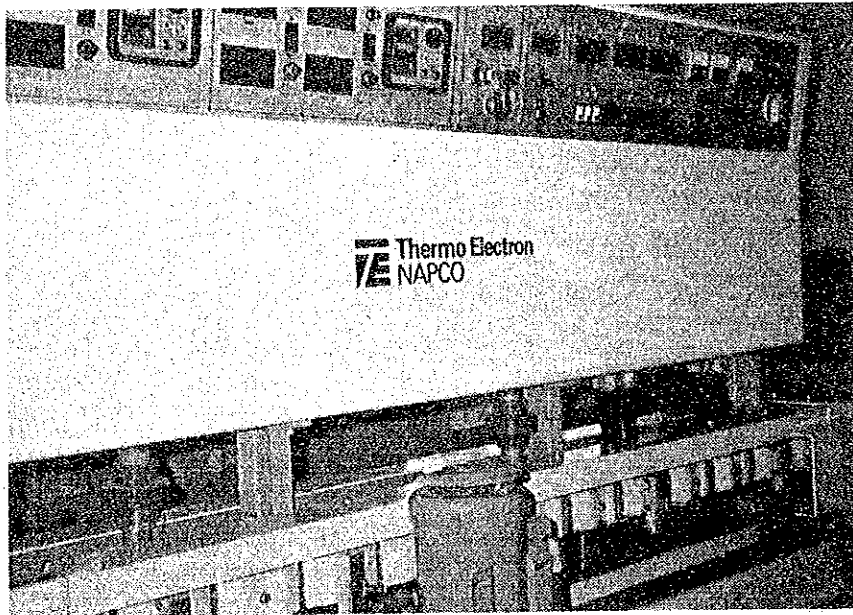
同、プリント基板製品



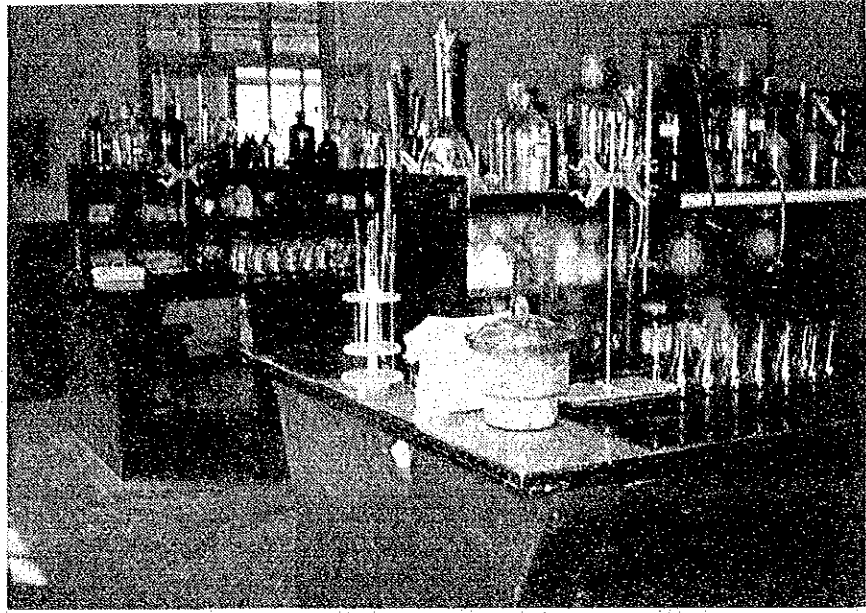
同、プリント基板めっき装置と基板用治具



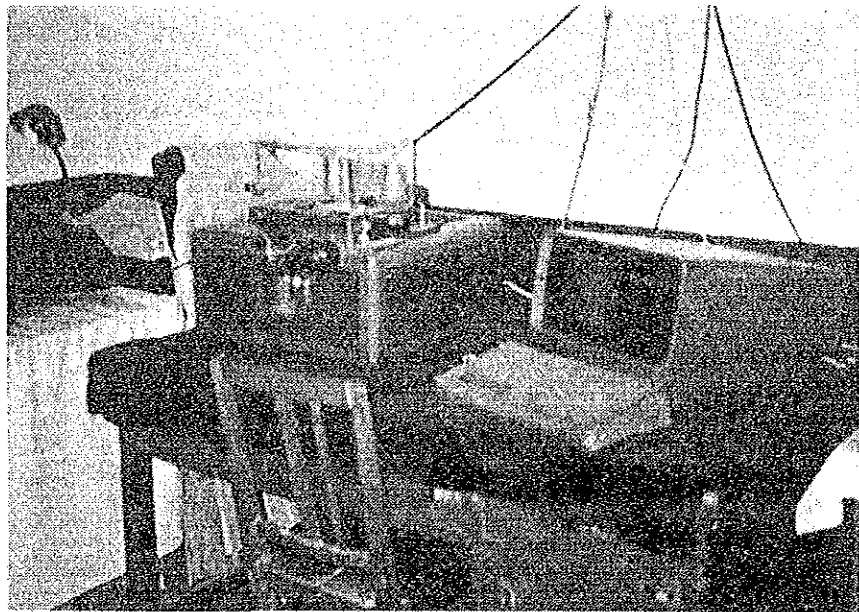
同、端子めっき装置



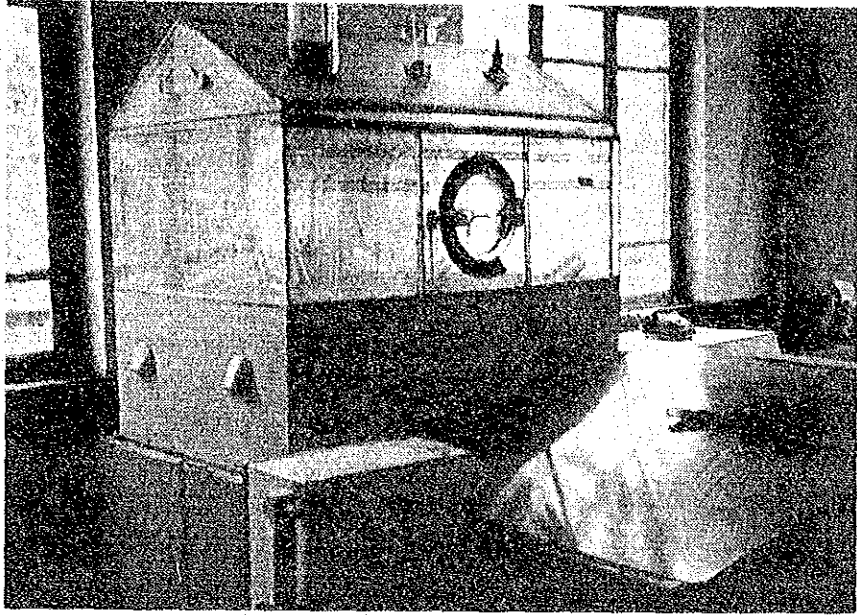
同、端子めっき装置



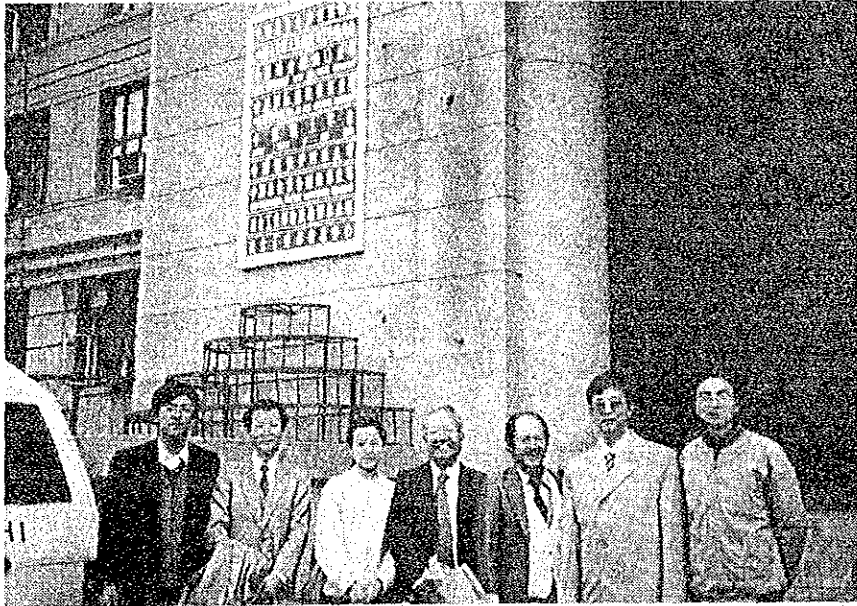
同、試験室



同、蛍光×線膜厚計



同、塩水噴霧機



同、工場にて、右端2人は帰国研修員  
左端は李通訳、左から3人目はJICA事務所周通訳



タイ国においては、機械金属工業等、その工業化はめざましいものがある。素材工業から加工工業更に最終工程における表面技術の重要性は極めて大切である。上述のJICAプロジェクトである金属加工機械工業開発研究所(MIDI)においても、熱処理を含め金属の表面技術に力を注いでいる。一方中国においても、素材産業の伸は特に顕著であり、当国の鉄鋼生産高は年産約6000万トンと云われ(中国冶金工業部調べ)エネルギー等諸問題が解決されれば、その生産高は更に増加が期待されている、従って従来の金属表面処理のみでなく、素材の表面改質に対する関心が非常に高く、鋼鉄研究総院において近々表面改質部を設置する計画である。

帰国研修員については、タイ国においては、本コース帰国研修員の15名に面接、本コース外帰国研修員の18名に面接した。中国においては、チームの訪問が北京市のみであったため、本コース帰国研修員8名中の3名(武漢から1名参加=鉄道で20時間所要)本コース外帰国研修員の5名に面接した。両国ともフォローアップを大変歓迎し、また技術文献のフォローアップを3年迄でなく、その期間の延長を希望している。

彼等の活動状況については、多くの帰国研修員は、その後地位も上り重責を担っている。

尚、中国において、冶金工業部(職員数300万人で他コースをも含めれば、中国全土に可成の帰国研修員がいるもよう、当センターのみにおいても30名位おり)が中心となりJICA同窓会の改設考えているようである。当件について、詳細はJICA中国事務所と相談すべき旨回答した。

最後に両国ともJICA事務所を始め関係各位の多大なご協力を賜り無事任務を果たすことができ、当紙面をお借りしお礼申し上げます。



